

令和7年度 兵庫県立猪名川高等学校 学校評価アンケート結果

評価 4(とてもあてはまる) 3(あてはまる)を数値化

評価項目	重点目標	担当部署	取組	生徒	保護者	教職員	総括(成果及び課題)			
安全・安心で地域に信頼される学校づくり	地域や関係機関との連携を密にし、安全、安心で地域、保護者、生徒の期待に応える信頼される学校を目指す。	総務・学年・生徒指導・保健	① 学校HPの充実・情報共有	84.1	64.4	60.7	各行事等が実施される度に迅速に学校HPに掲載し、情報発信を行うことができた。しかし、警報や災害時などにも対応できるように内容の改善が必要である。			
		総務・教務・進路指導	② 行事や公開授業等の案内・教育活動への理解	84.1	56.5	85.8	体育祭・文化祭・学習成果発表会等の行事については、保護者の参加数が多かった。今後はその他の行事についても参加していただけるよう積極的に案内をしていきたい。			
		学年	③ 保護者との連携(三者面談・家庭訪問等)	71.1	51.1	82.2	各学年の担任は、生徒1人ひとりに丁寧な面談や、日々の連絡を心がけることができていた。			
		総務・教務・進路指導・進路指導・生徒指導	④ ボランティア活動の充実・猪名川町関係機関との連携	64.6	22.2	67.9	各種委員会による多くのボランティア活動を実施することができた。特に猪名川町関係のイベントにおいて生徒がボランティア活動を積極的に行った。今後、特色類型の生徒の積極的な参加が課題である。			
		生徒指導・学年・保健・いじめ対応チーム	⑤ 医療機関・キャリアパスカウンセラー等の連携による安全、安心な環境を整備	78.1	57.8	89.3	昨年度に比べ、人間関係により心身に悩みを抱える生徒が増えているため、カウンセリングの充実を図った。また、教職員もこれまで以上に養護教諭やカウンセラーとの情報共有を積極的にを行い、安心・安全な環境整備に努めることができた。			
基礎学力の定着と進路実現	基礎・基本的な知識や学力の定着を図るとともに、主体的に考え、正しく判断し、行動できる力を育成し、生徒一人ひとりの夢・目標の実現を支援する。	教務・進路指導・教科・学年	⑥ 公開授業・研究授業、研修等を通して、指導力の向上	83.3	44.4	75.0	他校の研究授業や様々な研修に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた創意工夫された教材を活用した授業実践ができたといえる。生徒の満足度も向上しているため、次年度さらなる向上を目指していきたい。保護者の教育活動への関心を「見える化」により、高めることが課題である。			
			⑦ 生徒の到達目標の明確化・シラバス及び年間計画の周知	74.8	53.4	64.3	学習指導要領に沿った、教科指導の充実を図ることができており、主体的・対話的で深い学びや、総合的な探究の時間、AIを活用した授業の充実が課題である。			
			⑧ 少人数制・習熟度別学習指導、基礎学力・技能の向上	83.1	37.7	60.7	少人数授業や習熟度別授業を多く取り入れ、生徒1人ひとりにきめ細かな指導を実施できている。図書実や職員室前の学習環境の充実による個別最適な学びの実現が課題である。			
			⑨ 学習意欲の高揚・学習習慣の定着	89.0	27.1	82.1	多くの授業において、グループワークを通して様々な人の意見を交換したり、自分の考えを発表する機会を多く提供することで、生徒の学習意欲の向上を図ることができている。今後は、家庭学習の充実を含め、生徒の学習習慣の一層の定着を図ってきたい。			
			⑩ ICTの活用技術向上	90.0	31.1	92.9	BYODが導入され4年目になり、全生徒のICT活用能力が高まっている。今後は生徒のICT機器活用能力・生成AIの活用等、一層の向上を目標に全教科で取り組んでいきたい。			
			⑪ 自己理解の促進・進路学習	89.1	57.8	71.4	進路指導部や各学年において、計画的に実践することができた。特に、外部講師による講話や進路関係のホームルームの充実が図れた。課題は、生徒が自己の適性の把握や、自己の未来を見据えて身につけたい力を理解し、進路を選択ができる力を育成することである。			
			⑫ 学習支援アプリの活用した自己理解や学習習慣の定着	57.1	28.8	75.0	多くの授業で学習支援アプリを活用し、生徒の主体性を伸ばすことができた。今後は、家庭学習においても生徒が主体的に学習支援アプリの活用の定着を図り、学習意欲を高めるよう保護者との情報共有の充実を図ることが課題である。			
			⑬ 各種検定試験・高大連携の充実による進路実現	45.7	55.5	67.9	これまで以上に各種検定試験の受検を呼びかけるようにする。来年度は、大学・専門学校との連携を積極的に推進することによって、生徒の進路実現に向けて様々な情報を提供していくようにする。			
			基本的生活習慣と規範意識の確立	基本的生活習慣と規範意識の確立を目指し、生徒一人ひとりが社会の一員として道徳性に富み、豊かな自己表現が図れるよう支援する。	学年・教科・生徒指導・教務・保健	⑭ 健康管理・時間管理等、基本的学習習慣の確立	88.1	75.6	89.3	ミマモルズを導入して4年目になり、保護者からの遅刻・欠席の連絡を早期に把握することで、各生徒や保護者に対してより適切な対応ができていた。また、生徒支援部による日々の登校指導や自転車登校の校則改善により、遅刻していた生徒が減少することに大きく影響を与えた。
					学年・教科・生徒指導・教務・進路指導	⑮ 挨拶や言葉遣いなど、TPOに相应した行動・所作の指導	91.6	54.4	82.1	学年集会や全校集会はもちろん、日々の学校生活において機会があるごとに学校や社会のルールを守ることに触れ、規範意識を高めるよう努めた。特に生徒指導部長によるリーダーシップにより、生徒・教職員の意識の向上を図ることができた。
					学年・総務・生徒指導・教務	⑯ 教室の清掃・身の回りの整理整頓等、学習環境の整備	90.5	64.5	75.0	日々の清掃活動や大掃除において学校の美化に努めた。教室の清掃活動や机・椅子の整理整頓、敷地内の美化を次年度の課題にしてさらなる学習環境の充実を図ってきたい。
					学年・生徒指導	⑰ 帰属意識の向上・他者との協働	87.1	68.9	78.6	各行事やHP活動において、教師主導ではなく、生徒が主体的に行動できるような機会を設定し、クラス内や学年内の一体感を目指していくことが課題である。
					生徒指導・学年・各委員会	⑱ 生徒会を中心とした各委員会活動の充実	81.8	60.0	71.4	生徒会執行部の生徒たち、学校行事等の取組について主体的に考えるように促し、彼らの意見を積極的に取り入れるなどし、生徒会執行部の主体性を尊重するようにした。それにより、自転車登校の校則を生徒が提案し実現することができた。※神戸新聞掲載
社会の変革に対する「キャリア教育」の推進	社会の大きな変革に対し、高い志を持ち、自らの課題の解決に取り組む力や円滑な人間関係を築く態度を育成する「キャリア教育」に取り組む。	進路指導・学年・総合的な探究の時間委員会	⑲ 分野別進路ガイダンスの計画的な実施による自己実現の充実	84.0	68.8	89.3	学年毎進路ホームルームやガイダンス等を定期的に行い、生徒の進路に対する意識を高め、主体的な進路選択ができるよう支援をすることができた。			
		進路指導・学年・総合的な探究の時間委員会	⑳ 仕事(職業)を通じた地域・国際社会に貢献する意識の向上	79.6	55.6	85.7	今年度もインターンシップを実施することができ、生徒が仕事や地域貢献に対する理解を深めることができた。また、姉妹校マウントクリア・カレッジとの交流により国際社会に貢献する意識の向上につなげることができた。課題はインターンシップへのモチベーションの向上である。			
		進路指導・学年・総合的な探究の時間委員会・体育祭実行委員会・特色類型委員会	㉑ 学年縦割り編成のブロック演技・特色類型の活動の充実	83.8	68.9	100	体育祭や文化祭において、例年通り実施することができた。また、行事を通して縦のつながりも深めることができた。また分教室の生徒とも交流を通して他者理解を深めることができた。			
		進路指導・学年・総合的な探究の時間委員会	㉒ 手帳やタブレットによる活動の行動計画力の向上	76.6	22.2	42.9	手帳・タブレットの活用を呼びかけ、提出物や行事、締切日等の日時を記録(メモの習慣化)するように促した。今後は、生徒がさらに行動計画を立てられるように指導を行ってきたい。			
自他の生命の尊重	自然への畏敬の念とふるさとを愛する心を育むとともに、自他の生命と人権を尊重し、ともに学び生きる心を育てる。	学年・生徒指導・人権福祉委員会	㉓ 人権教育の充実	86.5	60.0	71.5	今年度は全校生徒対象に、車椅子のダンサーによる人権講演会を実施した。また、猪名川町や阪神の同和教育研究協議会に積極的に参加した。来年度も引き続き人権教育の推進を図ってきたい。			
		学年・生徒指導・人権福祉委員会	㉔ 人権に配慮し、道徳を重んじた教育活動の実践	89.3	57.8	75.0	普通の学校生活において、機会を見つけては人権に配慮した行動をするようにきめ細かな指導を行った。特に本校の生徒は、お互いの人権を尊重し合うことへの意識が低い生徒も少なくないため、様々な場面を通して継続的に指導していくことが重要である。			
		学年・人権福祉委員会	㉕ 特別支援学校等との交流実践	87.5	80.0	85.8	県立こやの里特別支援学校や県立川西カトリックの丘特別支援学校の分教室と、文化祭や体育祭をはじめ、様々な行事・授業・特別活動を通してお互い交流し、理解し深め合う関係を築くことができた。			
		学年・人権福祉委員会	㉖ 特別支援学校と連携した特別支援教育の充実	87.6	40.0	64.3	来年度も、県立こやの里特別支援学校・県立川西カトリックの丘特別支援学校の分教室の教職員と交流を深め、互いを理解し尊重できる関係の構築を継続させる。次年度は特別支援教育の合同研修の実現を目指すことを計画していきたい。			

81.1 52.5 76.4